

年度 2008 学期 後期	曜日・校時	火曜・3	必修選択	選択	単位数	2
授業科目/(英語名)	法と政治(「規制緩和」「構造改革」批判と市民の権利) Law and Politics ("deregulation" and fundamental rights)					
対象年次	1・2年次	講義形態	講義	教室		
対象学生(クラス等)	全学部		科目分類	人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー	担当教員: 吉田省三 /Eメールアドレス: /研究室: 経済学部本館507 /TEL: 397 (講義開始時に受講者に連絡方法を示します。)/オフィスアワー: 授業終了後、講義室					
担当教員(オムニバス科目等)						
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標(500文字)	<p>授業のねらい: 平等よりも自由を重視し、自由権を強調する新自由主義は、経済的には自由放任主義、法律的には、社会的権利を解体することにつながるのではないかという観点から、規制緩和、構造改革について批判的な検討を行う。</p> <p>授業方法: 資料等を配布する。教科書は使用しない。</p> <p>授業到達目標: 新自由主義を日本国憲法の価値観から批判すること、各分野毎の新自由主義的改革(市場、社会保障、労働市場、公共サービス等)を批判的に検討することを目的とする</p>					
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む)(1300文字)	<p>授業内容(概要)</p> <p>冒頭で「新自由主義」的構造改革の反憲法的、反人権的問題点を検討し、その後「格差社会」を生み出す原因となった「規制緩和」「構造改革」を各分野毎に検討し、対抗戦略を示す。</p> <p>第1回 「新自由主義」と市民の自由 第2回 規制緩和と自己決定・自己責任 第3回 日本における規制緩和の特質 第4回 競争原理の導入と司法改革 第5回 大型店規制の規制緩和と焼き畑商業 第6回 独禁法・競争政策と規制緩和 第7回 不公正な資本主義と優越的地位の濫用 第8回 消費者行政と規制緩和 第9回 不当表示規制と「偽装」問題 第10回 労働一派遣労働・偽装請負 第11回 社会保障と規制緩和 第12回 都市計画の規制緩和と持続可能な都市 第13回 地方自治と市場原理の導入 第14回 憲法と規制緩和一経済的自由放任主義 第15回 新自由主義への対抗戦略</p>					
キーワード	新自由主義、規制緩和、構造改革、市民法・社会法					
教科書・教材・参考書	<p>参考書(○番号は、講義の回数に対応している)</p> <p>①大門実紀史『新自由主義の犯罪』新日本出版社、2007年 ②③⑤⑦本間重紀『暴走する資本主義』花伝社、1998年 ⑥丹宗・小田中編『構造改革批判と法の視点』花伝社、2004年 ④伊藤和子『誤判を生まない裁判員制度への課題』現代人文社、2006年 ⑧⑨杉浦一郎編『消費者法これだけは』法律文化社、2007年 ⑩萬井隆令他『規制緩和と労働者・労働法制』旬報社、2001年 ⑩脇田滋『労働法を考えるーこの国で人間を取り戻すために』新日本出版社、2007年 ⑫福川裕一・矢作弘・岡部明子『持続可能な都市』岩波書店、2006年 ⑬尾林芳匡『自治体民営化と公共サービスの質』自治体研究社、2007年 ⑬保母武彦他『夕張・破綻と再生』自治体研究社、2007年 ⑭渡辺治『憲法「改正」ー軍事大国化・構造改革から改憲へ』旬報社、2005年 ⑭井口秀作『いままなぜ憲法改正国民投票法なのか』蒼天社出版、2006年</p>					
成績評価の方法・基準等	参考書欄に示した基本文献について作成したレポート(もともと興味のある分野で一冊を選択する)により評価する。					
受講要件(履修条件)						
本科目の位置づけ/学習・教育目標						
備考(準備学習等)						